

虹技、機械加工に参入

門型MC導入、完成品供給

铸造大手の虹技は11日、姫路東工場（兵庫県姫路市）で機械加工事業を開始すると発表した。2023年1月

のみでなく、完成品としてユーザーに提供することで、铸件製品の付加価値向上と拡販を目指す。

をめぐりに門型マシンニングセンターを導入、従来社外で行っていた機械加工を社内で行うことで、従来の铸件素材

新たに設置する設備は、新日本工機製の門型マシンニングセンター「NeoV-6M」。テーブルサイズは600

0^{mm}×3000^{mm}で、工作物許容質量は30^tまで対応するほか、自動加工ソフトも導入する。

同社では既存加工機を3台保有しているが、新たにマシンニングセンターを導入することで、加工精度の向上を実現した。従来、産業機械の铸件素材としてユーザーに提供していたものが、模型製造から铸件素材までの工程から、模型製造から铸件完成品までの一貫生産が可能となる。

新設備では、ギアケースや工作機械用铸件などを加工する。同社では、市場のニーズが拡大していた機械加工を強化すること

で、铸件部門の付加価値向上を進め「部門の業績などを勘案しながら、今後も加工機の更新や増設を行っている」（山本幹雄社長）としている。



設置を進める門型マシンニングセンター